

公益財団法人庭野平和財団 御中

## 2013 年度事業 事業報告書

平成 26 年 5 月 26 日

特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター

## ■ 事業概要

本プロジェクトは、地域 NGO の持続的な組織運営の促進とファンドレイジング力の向上を目的とし、2012 年度から 3 カ年計画にて開始した。本プロジェクトは、地域に根差した活動を行う NGO が、様々な『縁（えにし）』を活用しながら持続的な組織運営を模索するとともに、ファンドレイジング及び支援者拡大など、現在、多くの NGO が抱える課題に対する改善策となりうるような参考情報・事例をつくることを目標に実施した。

2 年目を迎えた 2013 年度は、主に、以下の 3 つのテーマを柱に実施した。

- 1) アクションプランの作成・実施
- 2) 全体共有会の開催
- 3) 冊子『NGO のためのファンドレイジング』の制作

3 カ年計画		2012 年度				2013 年度				2014 年度
		4 月 ~	7 月 ~	10 月 ~	1 月 ~	4 月 ~	7 月 ~	10 月 ~	1 月 ~	
1 年目: 調査分析	対象地域・協力団体 NGO の選定	● →								
	協力 NGO に対する調査(4 団体)		● — — — — →							
	座談会の開催(首都圏と地方にて計 2 回開催)			● — — — — →						
	アクションプランの作成			● — — — — →						
2 年目: 事例化	アクションプランの作成・実施(支援者動向に関する調査分析も含む)					● — — — — →				
	全体共有会の開催							● →		
	普及媒体(『NGO のためのファンドレイジング』)の制作					● — — — — →				
3 年目: 普及化	他地域への普及(予定)								● — — — — →	

## ■ 本プロジェクトの実施体制

### 1) 対象地域及び協力団体、アドバイザー

本プロジェクト2年目についても、1年目同様、神奈川県、中部地域の2対象地域、4団体の協力のもと実施した。また、対象地域ごとのアドバイザーについても、1年目同様、菅文彦氏（コース・アクション代表、JANIC 理事）、下澤嶽氏（静岡文化芸術大学教授、JANIC 理事）の2名の協力のもと実施した。

以上、本プロジェクトを実施する対象地域、協力団体 NGO、及びアドバイザーについては、以下のとおり決定し、本プロジェクトを開始した。

対象地域	協力団体	アドバイザー
神奈川県	(特活)WE21 ジャパン (特活)地球市民 ACT かながわ/TPAK	菅文彦(コース・アクション代表、JANIC 理事)
中部地域	(特活)アジア日本相互交流センター(ICAN) (特活)カレーズの会	下澤嶽(静岡文化芸術大学教授、JANIC 理事)

## ■ 事業の詳細

### 1) アクションプランの作成・実施

各協力団体においては、アドバイザーからのアドバイスのもとアクションプランを策定し、今年度より実施された。協力4団体のアクションプランのテーマ、及び内容については、以下のとおりである。(アクションプランの詳細は別添資料を参照)

団体名	テーマ	目標/最終ゴール
(特活)WE21 ジャパン	WE21 ジャパンの子育て世代のファン形成	子育て世代への接触拡大を通じて、中長期的な支援者層を獲得する。
(特活)地球市民 ACT かながわ/TPAK	日本のお年寄り、アジアの子ども達も元気になる「あみあみプロジェクト」	日本の企業が経営する高齢者介護施設において、アクリルたわしなどの制作を行い、タイ・ミャンマー・インドに届け、子供たちの衛生環境、衛生意識の改善と、心身ともに子ども達の健康改善を目指す。
(特活)アジア日本相互交流センター(ICAN)	地域の学生を通じた、新規寄付者拡大に向けた取り組み	フィリピンの子どもたちの生活向上に向けた取り組みを広めるため、新規寄付者・会員獲得と事業収入の増加を図る。

(特活)カレーズの会	静岡在住のコア・ボランティア等を通じた支援者拡大	アフガニスタンへの理解と関心を高め、新たなサポート方式の提案を通じ、新規会員や寄付者の拡大を目指す。
------------	--------------------------	--

## 2) 全体共有会の開催

全体共有会では、現在、協力4団体によって実施されているアクションプランの成果を共有することを目的に開催した。主には、ファンドレイジングについて「何から取り掛かればよいかわからない」といった悩みを抱えていたり、地域との連携や『縁』を通じたファンドレイジングに関心をもつ NGO・NPO 関係者にご参加いただいた。また、地域とのつながりというテーマに関心をもつ NGO・NPO 関係者以外（一般の方も含む）にも広く参加を呼び掛けた結果、当日は約30名にご参加いただいた。全体共有会の開催内容は、以下のとおりである。計画時は各地域での開催を検討していたが、個々の進捗状況と個別に情報提供を行うよりも、協力4団体の情報にまとめて触れ、比較しながら学べる機会とすることが適当との考えから、一回の開催とした。

### 【全体共有会 開催内容】

#### ■ テーマ：

中小 NGO のためのファンドレイジング・セミナー～NGO と地域社会との『縁（えにし）』を考える～

#### ■ 目的・目標：

- 1) 中小規模の NGO が抱えるファンドレイジングの現状・課題を認識し、今後の改善策を考える。
- 2) 本プロジェクトにて実践しているアクションプランを共有する。

■ 日時：2014年4月17日（木） 13:30～16:30

■ 会場：JICA 地球ひろば（JICA 市ヶ谷内）

■ 対象者：地域の「縁」を通じた様々な取り組みに関心をもつ方（NGO 関係者以外も参加可能）

#### ■ プログラム：

	内容	登壇者
講演	<p>【テーマ】</p> <p>① 中小 NGO が抱えるファンドレイジングにおける課題</p> <p>② 上記課題に対する改善策を考える上でのポイント</p>	菅文彦（コース・アクション 代表）
事例発表	<p>事例① 地域の学生を通じた新規寄付者拡大に向けた取り組み</p> <p>事例② 県内のコア・ボランティアを通じた支援者拡大について</p> <p>事例③ 高齢者介護施設において取り組む「あみあみプロジェクト」について</p>	<p>①アジア日本相互交流センター（ICAN） 中村由実子</p> <p>②カレーズの会 永井仁乃</p> <p>③地球市民 ACT かながわ/TPAK 伊吾田</p>

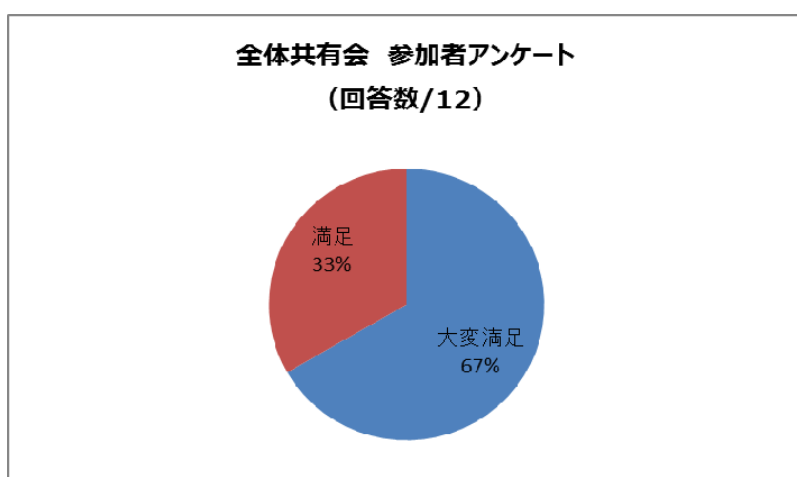
	事例④ WE ショップを通じた子育て世代のファン層拡大について	善行 ④WE21 ジャパン 森田夕紀
パネルディスカッション	【テーマ】 中小 NGO が目指すべきファンドレイジングとは？ ～NGO と地域社会との「縁（えにし）」を考える～	コーディネーター： 下澤嶽（静岡文化芸術大学 教授） 登壇者： 上記事例発表団体 4 団体
交流会	交流会・名刺交換	

■ 参加団体： 30 名（19 団体）

アーユス仏教国際協力ネットワーク、ESA アジア教育支援の会、GNC Japan、NPO 国際インフラパートナーズ、アムネスティ・インターナショナル、多文化共生センター東京ケア・インターナショナル ジャパン、Green Project、ビルマ市民フォーラム、日本キリスト教海外医療協力会、環境再生保全機構(ERCA)、アクション、世界自然保護基金ジャパン、学生（明治大学政治経済学部政治学科）、WE21 ジャパン、地球市民 ACT かながわ/TPAK、カレーズの会、ICAN、国際協力 NGO センター(JANIC)

全体共有会では、アクションプランの共有以外に、中小 NGO 対象としたファンドレイジングに関する講演や、「中小 NGO が目指すべきファンドレイジングとは？」というテーマによるパネルディスカッションを行い、参加者との意見交換の場も設けた。参加者の満足度も非常に高く、当日のアンケートでは以下のコメントをいただくことができた。

【参加者アンケート】



【参加者の声】

- ・ 地域の支援者は一括りではなく、様々な層ごとに考えるべき、という気づきになった。
- ・ 支援者と NGO との Win-Win の関係を改めて考えるきっかけとなった。

- ・ 理論的なことではなく、実際的な取り組みを聞いたことは大変参考になった。
- ・ 有名 NGO・NPO のファンドレイジングの取り組みはよく見聞きするが、中小の NGO・NPO の事例を聞けるチャンスが非常に限られているので、とても参考になった。

### 3) 冊子「地域の『縁』を活かした NGO のためのファンドレイジング ～成功を呼び込む 5 つのポイント」の制作

本プロジェクトの過去 2 年間の活動、及び、NGO がファンドレイジングに取り組む際に参考となる情報を取り纏めた冊子：「地域の『縁』を活かした NGO のためのファンドレイジング ～成功を呼び込む 5 つのポイント～」を制作した。本冊子は、年間の活動規模が数億円、職員を数十名抱える大規模 NGO を対象とするものではなく、中小規模の NGO（特に地域の団体）を対象に制作しており、内容としても、日頃からファンドレイジングに悪戦苦闘している団体に再チャレンジを促すことができるよう制作した。また、多忙を極める NGO スタッフにも飽きずに読んでもらえるよう、外部業者の協力を得ながら文章表現等も工夫し、読みやすさも意識して制作した。本冊子の構成・概要は以下のとおりである。

#### 1. NGO7 団体の事例紹介（団体名・事業名）

- ・ アジア日本相互交流センター (ICAN) … 書き損じハガキを通じて、地域との関係を築く
- ・ アクセスー共生社会をめざす地球市民の会 … 団体の組織基盤強化を通して、支援者との顔が見える関係を築く
- ・ アクション … 途上国と日本の社会とのつながりを作る
- ・ WE21 ジャパン … リサイクルショップを拠点に、地域とのつながりを作る
- ・ 地球市民 ACT かながわ/TPAK … 次世代へのバトンタッチ
- ・ テラ・ルネッサンス … 「伝える」ことによって、支援の輪を広げる
- ・ エイズ孤児支援 NGO・PLAS … 「戦略づくり」を通じて、自団体に適した組織運営を構築する

#### 2. 中小 NGO がファンドレイジングに成功する 5 つのポイント

本プロジェクトのアドバイザーである菅氏に協力のもと、「中小 NGO が自団体の特徴・長所などを活かしながらファンドレイジングに成功するためのポイントを 5 つに纏め掲載した。

#### 3. 中小 NGO が目指すべき、ファンドレイジングとは？

4 月 17 日に開催した本プロジェクトの全体共有会（中小 NGO のためのファンドレイジング・セミナー）において実施したパネルディスカッションの内容を纏めた。パネルディスカッションでは、主に、本プロジェクトの協力団体 4 団体（ICAN、カレーズの会、WE21 ジャパン、TPAK）の経験値を話してもらい、且つ、中小 NGO が目指すべきファンドレイジングについて議論し、その内容を本冊子に掲載した。

なお、本冊子は 1000 部印刷し、3 年目事業である事例普及において使用する予定である。また、地域のネットワーク NGO なども通して、ファンドレイジングに苦戦している潜在層へ効果的に届くよう配布計画を立てる予定である。

#### 4) 最後に： 成果と課題

本プロジェクトの2年目は、アクションプランの具体的な実践、および冊子「地域の『縁』を通じた NGO のためのファンドレイジング ～成功を呼び込む5つのポイント～」の制作に取り組んできた。

「地域の『縁』を通じたファンドレイジング」という非常に難しいテーマではあるが、アドバイザーとの協力体制のもと試行錯誤しながら、徐々に成果が見えつつある。協力4団体ともに、長年問題意識を持っていた課題をアクションプランのテーマに掲げているだけに、それぞれの団体が組織をあげて取り組むことができたことは、大きな成果であったと考える。但し、2年目が終了した現時点においては、アクションプランの目標に対するハッキリとした成果は見えてきておらず、継続的に経過を見守る必要があると考える。

また、本プロジェクトの2年間の成果を共有すること目的に、全体共有会を企画し開催した(4/17(木)：JICA 地球ひろば)。「中小 NGO のためのファンドレイジング」というテーマで開催し、①協力4団体からの事例紹介、②中小 NGO のためのファンドレイジングについての講演、③パネルディスカッションという内容で実施した。この中で、NGO が地域の『縁』とつながることによるメリット、地域との連携の仕方などについて、参加者との質疑応答形式で議論を行った。参加者からは、「中小規模 NGO を対象にした学習機会は大変貴重である」「地域とのつながりを考える良いきっかけとなった」等の好意的な意見が多く聞かれ、終了後の交流会では熱心に4事例団体と名刺交換をする参加者が多かった。参加者の団体の多くは専従スタッフがいない、あるいは専従3名前後で運営している団体であり、自団体と同規模で活動している団体のファンドレイジングへの取り組みについて関心の強さを実感することができた。中小規模の NGO、特に地方の NGO の場合、ファンドレイジングに関する研修やセミナーで得た知見をそのまま自団体に取り入れることが困難な要因を抱えているために、今回のように、地域や団体の特性を活かしながらファンドレイジングに取り組んでいる実際の事例を紹介することは、実用性の高い貴重な情報となったと思われる。

冊子「地域の『縁』を通じた NGO のためのファンドレイジング」については、当初の予定(2014年3月完成)から若干遅れたものの、無事完成させることができた。地域の NGO だけに限らず、首都圏の NGO においても、中小規模の NGO にありがちな資金調達の現状(ファンドレイジングについて、どうすればよいか分からない、又は既に諦めている、これ以上「ファンドレイジング」という言葉を聞きたくない)を打開し、再チャレンジを促すことができるような参考情報を提供するため、冊子の全体構成を工夫し制作した。3年目の目的である「事例の他地域への普及」と「4団体のアクションプランの実施支援を通じた事例の精査」においては、上記のような状況を抱える潜在層に効果的に届く形式の普及方法を検討していきたい。

以上

添付資料：

- ・4事例団体のアクションプラン
- ・全体共有会での報告資料
- ・「地域の『縁』を活かした NGO のためのファンドレイジング ～成功を呼び込む5つのポイント～」